



総合資料館だより

2014. 7. 1 No. 180

「京都のいま」を記録する活動として



総合資料館では、平成25年度から「京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業実行委員会」を花園大学や地域の方々と結成し、文化庁の補助金を活用して、お地蔵さんの所在と地蔵盆の調査を行っています。

この写真は平成25年8月に右京区東市川地区（右）と上京区石薬師町（左）で行われた地蔵盆の記録です。今後も新資料館建設を見据え、このような「京都のいま」を記録する事業を続けて参りたいと考えています。

	「京都のいま」を記録する活動として	1
目	文献課の窓から 時代を映す鏡～京都関係雑誌に見る水害記録～	2
	歴史資料課の窓から 維新前民政資料 園部藩主参勤交代行列図	4
	最近の収集資料から（平成26年3月～5月）	5
次	平成26年度の事業予定について	7
	講座案内、友の会事務局から、利用案内等	8

時代を映す鏡 ～京都関係雑誌に見る水害記録～

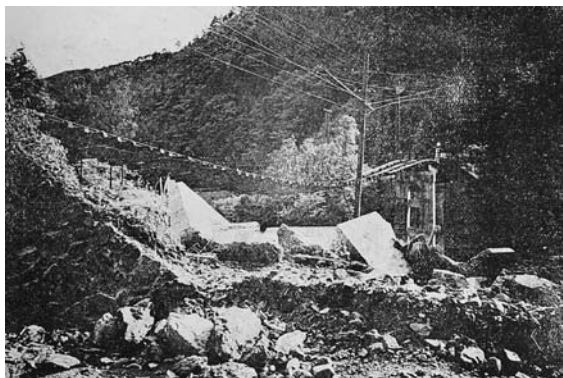
はじめに

当館では、京都に関する様々な雑誌を収集・所蔵しています。雑誌といっても、普通の書店で売っているようなものだけではありません。商工業者団体が発行する会報、お寺や神社の出版物、和歌や俳句の同人誌など分野は様々で、中には関係者以外はあまり手に取る機会がないようなものも含まれています。

雑誌の特徴は、継続して刊行されること、図書に比べてその時々情報が反映されやすいことです。たとえば団体の会報では、ちょっとした出来事の記録、人の動向、個々の会員による寄稿など、公式にまとめられた団体史では書かれないようなきめ細かい情報を見ることができま

す。歴史的災害のように大きな出来事が起きると、こうした雑誌にも関連記事が載ることがあります。

昭和10（1935）年6月29日、京都市で大水害が起きました。梅雨前線の影響で前日から降り続いた大雨のため、鴨川、天神川、御室川などが次々に氾濫したものです。京都府管内で死者18名、負傷者160余名、家屋の被害は全壊・半壊等含めて625戸、床上浸水12,937戸という甚大な被害が出ました。



「鞍馬川沿岸 鞍馬電鉄貴船口附近の鉄橋」
（『昭和十年六月二十九日鴨川未曾有の大洪水と旧都復興計画』より）

この災害について、当時の雑誌にはどのようなことが書かれているのか見比べてみましょう。

『京都医事衛生誌』の場合

明治から昭和頃まで、京都の医学関係の情報全般を扱った『京都医事衛生誌』という雑誌があります。昭和10年7月に発行された第496号には、西京極の御室川（現在の天神川）付近に住んでいた医師の被災体験談が載っています。

「床上の物品は無論棚の物箱物は皆浮き上り何の事もなく一斉に押し流し重量の道具は泥土に押し沈め地上至る処掘り出され邸内沼と化し、塀は倒れ庭木は流れ壁は落ち遠くより押流されたる大小異様の破壊物小屋、野の肥料壺（径六尺余）等々浮きつ沈みつ流れ来ては家屋の門柱家柱に激突しメリメリとぶち壊し耳もツンザク唸りを立て、濁流急瀬」と、生々しい書きぶりに恐怖が伝わってきます。この筆者は、三日間ほとんど飲まず食わずのまま浸水した部屋で過ごして体調を崩した上、書類も大半が流失・浸水して健康保険請求書の提出が月末に間に合わなかったとのことです。

一方で、水害の対策側として奔走する医療関係者の様子も窺うことができます。6月30日・7月1日には浸水の激しかった地域に救護班が派遣され、7月4日からは水害後の伝染病蔓延を防ぐため京都市衛生課と協力して各地域で腸チフス予防接種が行われています。また罹災した傷病者については、診察券に「罹災」と朱書することで診療費の負担を軽減させる措置もとられました。

『月刊京都印刷時報』の場合

京都印刷同業組合から刊行されていた会報『月刊京都印刷時報』84号（昭和10年9月）にも、会員の体験談が載っています。こちらは8月20日に書かれたもので、浸水による被害と対処法が書かれています。

「罫（※注）類は早く洗って油を塗った物は使用出来ませんが、組版中の浸水罫は全部使用出来ません（塩気の為錆と罫の横面が凸凹になりました）」

「当工場の機械或る部分が手入不十分にて油の溜った部分は泥も入らず錆も生ぜず、不注意が水害に役立ち実感しました」（原文ママ）

「浸水品は早く手入をする事（金物は銅、鉄、鉛の順に）」と、印刷業者ならではの具体的な体験談が書かれています。木版はそりが来るので直射日光に当ててはいけないなど、現代ではあまり使われなくなったものも見えます。

また82号（昭和10年7月）には、組合で懇意にしていた先斗町のお茶屋の女将おはつさんを顔写真入りで取り上げたコラムがあります。この方もかなりの被害を受けたようですが、常連客からのお見舞いに対して「もともと妾（わた）し達の社会を世間では泥水といひますさかいお天道様が泥水にしてくれはりましたんどすワ今に綺麗な蓮の花が廓一面に咲きますやろ」と粹なコメントを返しています。



『くらま』の場合

鞍馬弘教総本山鞍馬寺出版部が発行する布教誌『くらま』の146号と147号（昭和10年7月・8月発行）には、寺および周辺の被災状況が載っています。

「山上にあった数百貫の大石、山門近くまで流れ、コンクリートでかためた参道の石垣も、石段も所々、ちぎって取ったように流れてない。玉杉以下の献灯二十灯あまり、全部姿を失ひ、山上の送電も、高圧線も電柱諸共折れて流れ、電線は被覆がとれてみがかれてきらきら光ってゐる」

山中であるだけに、集落の孤立が特に深刻な問題でした。6月29日から7月7日までの様子を記した「水害七日の日記」という記事では、通信途絶と回復の様子を追うことができます。

29日「午後早々、村落を見舞ひしに、橋ごとごとく失し、道路決潰し流失家屋五軒半壊数家、浸水全部といふ有様、十王堂橋以下京都までの道路大方欠失崩潰」

30日「決死的の覚悟にて、下部友八京都に使用し、この惨状を伝へしむ」。鞍馬電鉄の鉄橋は橋脚が折れて不通となっていたため、この使者は宙に浮いたレールにぶら下がるなどして京都へ向かいました（前頁の写真を参照）。

1日「今日、鞍馬の惨害大朝（大阪朝日新聞）に報道さる、昨日の通信なり（中略）夕くれ京都との電話通ず」

8月号巻頭に載る信楽真純貫主の和歌にも「電燈も電話の線も水に絶え聞くよしもなき京の消息」「紙に書き石に包みて投げやりぬ橋流れ去り通信のため」と、孤立した状況が詠まれています。

7月7日に予定されていた御縁日では、御通夜参拝者に対し「必ず各自の食料品とランプを御持参ください」と事前に呼びかけるほどの状況でしたが、それでも260名程の参加がありました。信徒の熱心さを垣間見ることが出来ます。

全国の関係者から、お見舞の手紙や品物も寄せられました。「旅中にて京の出水を承知いたし、いかならんと心騒ぎ申候ひき」とお見舞いの言葉を寄せているのは、貫主と親交のあった歌人の与謝野晶子です。

おわりに

歴史的災害について調べる場合には、治水や災害をテーマにした資料、あるいは新聞記事などのように、客観的にそのテーマを記述した資料を調べることが最も一般的です。

しかし少し視点を変えると、こうした一見無関係な雑誌の中にも、それぞれの立場から見た時代のひとこまを読みとることができるのです。雑誌は時代を映す鏡であると言えるでしょう。

（注：「罫」・・・線を印刷するのに使われる金属製の薄板 『図解印刷技術用語事典』第2版）

（文献課 小篠景子）

〈参考資料〉

- ・『昭和十年六月二十九日鴨川未曾有の大洪水と旧都復興計画』 [京都府編] 1935 (MK1/5174/ KY6)
- ・『京都の治水と昭和大水害』 植村善博著 文理閣 2011 (K0/517.21/U42)
- ・『京都医事衛生誌』 496号 1935.7
- ・『月刊京都印刷時報』 82号 1935.7
- ・『月刊京都印刷時報』 84号 1935.9
- ・『くらま』 146号 1935.7
- ・『くらま』 147号 1935.8

維新前民政資料 園部藩主参勤交代行列図

京都府行政文書の中に含まれる、維新前民政資料の園部藩主参勤交代行列図（維新前民政資料88）は、江戸時代の大名行列を描く絵で、視覚的にもわかりやすいため、当館では展示等でよく使ってきました。維新前民政資料は、京都府が日露戦争後の地方改良運動の一環として、明治44～45年（1911～12）に、明治維新以前の住民の生活に関する調査を実施したものです。その過程で、地方改良施策で参考になるものについては写しを作成し、保存しました（『資料館だより』第102号参照）。

この図もその写しの一巻で、園部藩主の第9代、小出英教（こいでふさのり）の参勤交代の帰途を描きます。現在、「園部藩主参勤交代行列図」と名付けられています。『京都府下維新前民政資料蒐集目録』（京都府、明治45年）には「園部藩公江戸参勤帰城の節行列図」とあり、江戸から園部に帰ってきた時の、城に到着するときの行列を描いたものです。

図を子細に見ると、先払い役の町同心から始まり、前箱・見通しをもつ奴、張弓、具足、差替筒、打物、数人の供方に囲まれて馬に乗る城主、蓑箱、薬、弁当、水桶及踏籠、乗替馬があります。さらに、残押（のこりおさえ）、乗籠、山籠、雨具、乗供、荷物へと続きます。描かれる人数は総勢92人、馬7頭です。絵は行列のみで、町並や山川などの背景は描かれません。

南丹市にある市立文化博物館には本図と類似する参勤交代行列図があります。その図と当館のものを比べると、全体の構成や絵の雰囲気はかなり似ていますが、人数や馬覆いの家紋、注記の内容など細かな点で異なるところが見られます。細部を比較すると、顔の表情なども違って、別の絵師の手になるといえます。奥書によると明治37年に「黄雲田延」が記憶に基づいて嘉永年間（1850年頃）の様子を描いたものとあります。作者の黄雲は号で、田延は上田正延の名を略したものです。上田は旧園部藩士で、参勤交代行列図だけでなく、他にも旧藩関係の絵を残しています。

南丹市の作品の奥書には中山氏のもとに

じて制作した旨が記されています。先に見た維新前民政資料の目録では、当館の元図の所有者は園部村の今井氏となっています。中山氏、今井氏は、ともに園部藩の家臣にその名がみえることから、これらの絵は旧家臣たちが50年前を懐古して描かせた作品だと推測できます。

当館の資料には、端書に「園部藩主参勤交代行列之図 但園部八木間」とあります。また、山籠には「秀吉公拝領」の注記があり、小出氏が秀吉の一門であったことを強調するとともに、豊臣秀吉の権威が復権された近代以降の資料であることも物語っています。

当館の資料は、絵の部分だけを見るとよく描けていますが、卷子という物として見ると、紙の大きさ、紙の厚み、軸芯、軸装のいずれをとっても簡易なものです。外箱もありません。維新前民政資料の他の資料（宮津城主旗馬駿並家中指物之図〈No.100〉）と比較すると、同じ紙質・大きさの紙を指物之図では縦向きに、参勤交代行列図では横向きに使っていることがわかります。他方、南丹市のものは軸装が近年に改装されているものの、料紙には寸法の異なる横長の紙を使用しています。これらの点からも、当館の資料は模写図といえます。

京都府内では、福知山藩主朽木氏の参勤交代を描いた「参勤交代図」（用瀬徳全作、明治26年、福知山市蔵）、「福知山城主江戸参勤交代行列図」（榊原甚五右衛門作、明治42年、個人蔵）などが知られています。当館の資料は、明治44～45年頃の写しではありますが、大名行列を描く貴重な絵画資料といえます。

（歴史資料課：行政文書担当 大塚活美）



▲園部藩主参勤交代行列図（部分：城主のところ）



最近の収集資料から（平成26年3月～5月）



◆図書資料

〈京都〉

千年響流 勝林院開創一千年紀慶讃法要紀念
勝林院一千年紀実行委員会編刊 2013 87p
寄贈

醍醐寺文化財調査百年誌 「醍醐寺文書聖教」
国宝指定への歩み 醍醐寺文化財研究所編 勉
誠出版 2013 315p 図版16p

朝鮮通信使と京都 「誠信の交わり」への道-松
雲大師と雨森芳洲 高麗美術館編刊 2013
83p 寄贈

竹間 竹間こども風土記 竹間自治連合会[編]
刊 2013 71p 寄贈

**城陽市歴史民俗資料館友の会設立10周年記念
誌** 学びの館『五里ごり館』 城陽市歴史民俗
資料館友の会[編]刊 2013 52p 寄贈

ルポ京都朝鮮学校襲撃事件 <ヘイトクライム>
に抗して 中村一成著 岩波書店 2014
6,232p

亀岡市老人クラブ創立50年史 亀岡市老人クラ
ブ連合会[編]刊 2014 100p 寄贈

西陣年鑑 2013年版 西陣織工業組合広報担当
編 西陣織工業組合 2014 357p 寄贈

「京丹後」百寿人生のレシピ 今に生きる 京
丹後市健康推進課編 坂本廣子監修 京丹後
市 2013 46p 寄贈

京都国立近代美術館50年史 1963→2013 京都
国立近代美術館編刊 2013 478p 寄贈

京都の郷土人形コレクション総目録 国登録有
形民俗文化財 イケマン人形文化保存財団博物
館さがの人形の家編刊 2013 350p 寄贈

KYOTO MARATHON 大会公式プログラム
2014 京都マラソン実行委員会[編刊] [2014]
56p 寄贈

〈人文〉

BOOK PAGE 本の年鑑 2014-1,2 日外アソシ
エーツ編刊 紀伊國屋書店(発売) 2014 2冊

ブリタニカ国際年鑑 2014 ブリタニカ・ジャパ
ン 2014 648p

日本病院史 福永肇著 PILAR PRESS 2014
465p

圖書寮叢刊 看聞日記7 宮内庁書陵部[編]刊
2014 342p 寄贈

國學院大學所蔵古典籍解題 國學院大學創立
百三十周年記念 中世散文文学篇 國學院大學
編刊 2014 631p 図版24枚 寄贈

板木は語る 永井一彰著 笠間書院 2014 602p

事典神社の歴史と祭り 岡田莊司・笹生衛編
吉川弘文館 2013 10,395,2p

斎宮誕生 平成25年度特別展 斎宮歴史博物館
編刊 2013 61p 寄贈

世界の民族・国家興亡歴史地図年表 ジョン・
ヘイウッド著 蔵持不三也日本語版監修 柘風
舎 2013 252p

戦国大名の古文書 東日本編 西日本編 山本
博文・堀新・曾根勇二編 柏書房 2013 2冊

天下普請の城彦根城 世界遺産登録へ向けて
彦根城博物館編刊 2013 62p 寄贈

公文書でたどる近代滋賀のあゆみ 滋賀県県政
史料室編 サンライズ出版 2013 188p (淡海
文庫) 寄贈

交通の20世紀 吹田操車場と名神高速 吹田市立博物館編刊 2013 32p

辻惟雄集 4 風俗画の展開 辻惟雄著 岩波書店 2014 5,241,6p

図像解釈学 権力と他者 加須屋誠編 竹林舎 2013 461p (仏教美術論集 4)

円山応挙展 江戸時代絵画 真の実力者 円山応挙[画] 愛知県美術館・中日新聞社編集 円山応挙展実行委員会 2013 234p

布の道標 斎藤貞一郎著 紫紅社 2014 222p 寄贈

五線譜に描いた夢 日本近代音楽の150年 樋口隆一[ほか]編著 明治学院大学 2013 255p 寄贈

茶花大事典 上・下巻 塚本洋太郎監修 淡交社 2014 2冊

造化自然 銀閣慈照寺の花 珠寶著 淡交社 2013 111p 寄贈

〈官庁〉

ハンドブック消費者 2014 消費者庁編 全国官報販売共同組合 2014 382p

世界経済の潮流 2013年下半期世界経済報告 内閣府編 日経印刷 2013 8,183p

観光の実態と志向 平成25年度版 日本観光振興協会編刊 2014 238p

海洋白書 2014 海洋政策研究財団編刊 2014 258p 寄贈

日本の就業構造 平成24年度 総務省統計局編刊 2014 614p 寄贈

参議院審議概要 第185回国会臨時会 参議院事務局編刊 2014 314,154p 寄贈

舞鶴港港湾計画書・舞鶴港港湾計画資料 舞鶴港港湾管理者・京都府編刊 2013 3冊

参議院議員通常選挙選挙の記録 平成25年7月21日執行 京都府選挙管理委員会編刊 [2014] 124p

関西広域連合広域計画 関西広域連合本部事務局編刊 2014 28p

京都市の水道技術 京都市上下水道局編刊 2013 44p 寄贈

木津川市ごみ減量化推進計画 もったいないプラン 木津川市生活環境部まち美化推進課編刊 2013 52p 寄贈

精華町町勢要覧資料編 統計で見る「せいかわ」平成25年版 精華町総務部企画調整課編刊 2014 53p 寄贈

■文書資料(新しく公開する資料)

藤野大吉家旧蔵資料 北桑田郡辻村(現在の京都市右京区京北辻町)の藤野大吉家に伝来した資料。寛文6年(1666)～昭和30年代。923点。辻村は近世は杉浦大八郎知行地、251石余の山間集落。藤野大吉家は18世紀後半頃から辻村の庄屋を務め、近代以降は杉苗商売を営みながら北桑田郡役所や京都市役所等に務めた家である。勉強熱心な家であり教科書や多数・多様の書籍が残されている。また自家の由緒(明智光秀を祖とする橋詰一族)に関わる調査資料がまとめられている。主な資料は次の通り。<近世>寛文6年(1666)「辻村検地帳」、宝暦13年(1763)「七十五箇条」、天明7年(1787)「餓米人数覚」、天明～寛政期「普請算用帳」、「藤野家杉苗売上帳」<近代>「藤野家万日記」、「京都府地誌」(北桑田郡下中村・上中村・下弓削村・辻村・静原村・大野村)、「日露戦争出征軍人所属部隊取調書」、北桑田郡役所関係書類、明治13～22年藤野治良氏日誌、山国地域の歴史関係資料の写、周山・山国地域の絵葉書、丹波・京都に関連する印刷物、明治初期の京都地域の教科書等。寄贈。

佐々木米行氏関連資料 池大雅美術館の先の館長で池大雅作品の収集家で研究者であった佐々木米行氏に関連する資料。昭和32年(1957)～59年(1984)。73点。池大雅美術館開館以来の記録2冊、米行氏の写真、米行氏が池大雅を収集する審美眼を養うために日々習作したといわれる漢詩・般若心経・百人一首等の作品、愛読した書籍類、米行氏と親交のあった日本画家の土肥蒼樹氏のスケッチ帳・印章等。寄贈。

木津小寺村喜多家文書 木津郷小寺村(現在の木津川市)で荷継問屋を営みながら一条家領の庄屋役等を務めた亀屋幸右衛門家(喜多家)に伝来した文書。宝暦12年(1762)～明治35年。336点。小寺村の

領主は一条家・禁裏・冷泉家・大山崎離宮八幡宮と複数おり、それぞれの領主に支配されていたが、一方で木津郷としてのまとまりをもつ地域でもある。金融関係の資料が多く、亀屋が広域に金融業も営んでいたことがわかる。ほかに領主一条家との関係を示す資料(春日社参向や石焼竈ほか)、金融訴訟、打ち壊し事件、博奕捕縛一件等、木津郷の村落の諸相がわかる資料である。寄贈。

清水家資料 京都市下京区清水家の資料。昭和18～43年。17点。戦争による傷病補償に関する資料、戦中・戦後の米穀・衣料の配給の資料、家賃の通。戦中・戦後の庶民の生活規制や補償について具体的にわかる資料。寄贈。

新館情報

昨年8月から始まった新総合資料館(仮称)の建設工事は、現在地下の掘削工事を行っています。地下は約11.45mまで掘削する予定になっており、平成26年5月末時点で、すでに北半分の掘削が完了しています。



▲新館南側外観パース

平成26年度の事業予定について

●講座について

東寺百合文書のユネスコ世界記憶遺産登録に向け、「東寺百合文書連続講座」(4回講座)を開催します。また、今年で3年目を迎える「京都学へのいざない講座」は、テーマを「くらし」として4回講座を開催します。「寺子屋講座」は2回開催し、1回目を7月31日(木)に、2回目の「京都の歴史を歩こう」を3月に開催します。「古文書入門教室」は12月、「歴史資料解説講座」は2月の開催を予定しています。

●企画展について

企画展は9月中旬～10月中旬の会期(予定)で、総合資料館2階展示室にて行います。

●シンポジウムについて

地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウムと、国際京都学シンポジウムの開催を予定しています。

○なお、蔵書点検は10月下旬、2週間程度の期間で予定しています。

これらの詳細については、決まり次第ホームページ、メールマガジン等でお知らせします。

寺子屋講座「学ぼう！琵琶湖疏水」

明治時代に建設され、今も京都の生活を支えている琵琶湖疏水について、講師の小森千賀子さんの紙芝居を見ながら、楽しく学びます。資料館オリジナルの琵琶湖疏水ワークブックもあります。

- ・日時：7月31日(木)午前10時～12時
- ・場所：総合資料館2階会議室
- ・講師：小森千賀子氏（琵琶湖疏水研究家）
- ・定員：小学4年生以上30人程度
（小学生は保護者同伴）
- ・受付：参加者氏名（ふりがな）、学年、電話番号を明記し、はがき・FAX・Eメール（shiryokan-bunken@pref.kyoto.lg.jp）で総合資料館文献課までお申し込みください。

友の会事務局から

友の会では、随時入会申込みを受け付けています。（年会費2,000円：申込時～平成27年3月）

*主な活動（予定）

- ・見学会、現地講座（年各1回、要参加費）
- ・「総合資料館だより」の配付（年4回）
- ・京都文化博物館、堂本印象美術館の入館割引など

問合せ先：友の会事務局（TEL 075-723-4831）

日誌（平成26年3月～5月）

- 3.4（火）～3.6（木）
歴史資料解説講座
- 3.15（土）国際京都学シンポジウム「名所の今昔」
- 3.23（日）寺子屋講座「京都の歴史を歩こう！2014 - 岡崎編 -」

古文書相談 歴史資料課 ☎ 075-723-4834

東寺百合文書がユネスコ世界記憶遺産登録に向けて日本からの候補に決まりました！

この秋、広く皆様に関心・興味を持っていただけるように連続講座を開催します。

ユネスコ世界記憶遺産候補 東寺百合文書連続講座「世界のなかの東寺百合文書」(仮)

第1回

金田章裕氏（京都大学名誉教授・京都府特別参与）
「世界に散らばる日本資料」

第2回

三光寺由実子氏（和歌山大学経済学部准教授）
「中世会計史と百合文書」

第3回

天野忠幸氏（関西大学非常勤講師）
「戦国時代、ヨーロッパと出会った頃の百合文書」

第4回

新見康子氏（東寺文化財保護課長）
「東寺の歴史と百合文書」

日程、会場は後日、資料館のウェブページなどでご案内します。

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始（12月28日～1月4日）

〔7月～9月の休館日〕

7月9日(水)、21日(月・祝)、

8月13日(水)

9月10日(水)、15日(月・祝)、23日(火・祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会（振替 01030-2-11991） TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。